

## (一般質問)

質問日	令和5年9月29日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	4	氏名	藤田 典良
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 局地的な豪雨、大雨による災害被害の軽減と対応について	<p>近年、台風や局地的な豪雨、線状降水帯による大雨が増加しており、市内でも幾つかの地域で河川が増水し、氾濫や越水、道路の冠水、家屋への浸水被害が多く出ている。</p> <p>浸水被害の出ている近隣住民は、台風や大雨のたび、自家用車を高台の駐車場へ移動させ、被害を免れている状態である。</p> <p>浜松市総合雨水対策計画が策定され、降雨量増加に対する対策が急がれる。局地的な豪雨、大雨による浸水被害の軽減と対応について、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松市総合雨水対策計画、12の重点エリアのうち、3つのエリアが重なる地域である堀留川上流、堀留川低平地、鴨江排水路の浸水対策が急がれるが、そのエリアの降水量による浸水被害等の現状と、浸水被害軽減のための対策について伺う。</p> <p>(2) 現在17か所(24基)に設置が進んでいる「土のうステーション」だが、いよいよ自治会への設置も進み、自助・共助の防災意識の啓発につながっていると思われる。</p> <p>土のうステーション制度実施からの成果と課題について、また、市民一人一人の防災意識のさらなる啓発のために今後、どのような対策が考えられるのか伺う。</p> <p>(3) 本市をはじめ、厚生労働省、各都道府県では、浸水被害発生時において、床下や庭等の消毒は原則不要としているが、床下や庭への浸水であっても、希望する家庭へは消毒薬を配付できないか伺う。</p>						伏木土木部長  〃  西原保健所長
2 防災士など有資格者の情報把握とその活用について	<p>近年、災害に対する知識取得のため日本防災士機構が主催する「防災士」や、静岡県が独自で開講する「静岡県ふじのくに防災士」などの資格取得を目指す人が増えている。このような資格を有する人には地域での防災活動や避難場所運営において活躍していただくことを目標として、取組を進めていく必要があると考える。</p> <p>そこで、防災士などの有資格者の情報把握と、有資格者における防災活動についての成果、今後の取組について伺う。</p>						石田危機管理監
3 文化財の防災対策(災害対応)について	<p>本市には、江戸時代以前の災害を記録した絵図や古文書があり、また市内の遺跡発掘調査でも、遠い過去に起こった災害の痕跡が見つかっている。</p> <p>東日本大震災においても文化財の多くが被災し、倒壊</p>						嶋野文化振興担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>した建築物、泥土に浸かってしまった文化財も多いと聞いている。災害時に被災した文化財を救うためには、行政だけでなく市民の力が不可欠であると考えているが、どのように考え、取り組んでいるのか伺う。</p>	
<p>4 美術館館蔵品の活用と魅力的な美術館に向けて</p>	<p>浜松市美術館には、ガラス絵をはじめとして、現在7000点を超える作品が所蔵されているが、常設展示が行われていない同美術館において、市の貴重な財産である館蔵品が市民や来館者の目に触れる機会が少なく、展示を求める声が多く聞こえる。市民のニーズに応えるべく、さらに魅力的な美術館にしていく必要があると考えるが、以下伺う。</p> <p>(1) 今後の館蔵品の展示計画について伺う。  (2) 館蔵品の保存、修繕計画について伺う。  (3) 魅力的な美術館としての今後の展望について伺う。</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長</p>
<p>5 ウェルネスシティの実現を目指して</p>	<p>本市は、健康面、幸福度でもトップクラスに位置し、ウェルネス先進都市として今後、さらなる飛躍が期待される。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 今年度新設された推進事業本部が目指す方向について伺う。  (2) 現在の取組と今後の取組について伺う。</p>	<p>藤野ウエルネス推進事業本 部部長</p>
<p>6 児童・生徒の心に寄り添う支援の拡充について</p>	<p>教師が多忙化、過酷な勤務状態にある中で、本来、問題視されなければならないのは、児童や生徒と関わる時間の短さである。不安定な世の中で、不安を抱え登校を渋ったり、教室に入ることに困難を覚えたり、発達的な支援を必要とするなど、悩みを抱える児童や生徒は増加の一途をたどっている。担任などの教師が、児童や生徒と関わるができる時間は本当に限られている中で、担任や教師以外にも児童や生徒の心に寄り添い、支援する人の手を増やす必要があると考えるが、以下伺う。</p> <p>(1) 現在、スクールカウンセラーは、中学校区などで二、三校を担当し、中学校で週1日、小学校は隔週などでカウンセリングを行っている。児童や生徒、保護者の相談は尽きず、時期によっては予約がいっぱいでカウンセリングが受けられない場合もある。不登校の児童や生徒、校内外のまなびの教室へ通う児童や生徒、発達に課題を抱える児童や生徒など定期的にカウンセリングを必要とする児童や生徒も多い中で、スクールカウンセラーの配置時間数が足りず、需要に対して供給が追いつかない学校も一部あるが、スクールカウンセラーの配置時間数の確保について、現状と取組について伺う。  (2) 子供たちの健康に関する課題が多様化・複雑化してお</p>	<p>奥家学校教育 部部長</p>

表 題	質 問 内 容	答 弁 者 の 職 名
	<p>り、従来の学校保健に関する業務だけでなく、新型コロナウイルスやインフルエンザなど、感染症への対応や子供たちからの個別相談を含め、養護教諭の業務は多岐にわたっている。児童や生徒数が多い学校には養護教諭補助員が配置されているが、勤務時間が限られていることから、学校規模によっては、より勤務時間の多い職員による複数配置が効果的であると考えます。</p> <p>令和5年度採用の教員採用試験では養護教諭が4人採用されているが、受験者は50人おり実質倍率は12.5倍と高い。学校の現状から考えると、養護教諭の複数配置の必要性は高いと思われるが、養護教諭の複数配置について、現状と今後の考え方について伺う。</p>	